

眠っていたウイルスが暴れだす 帯状疱疹

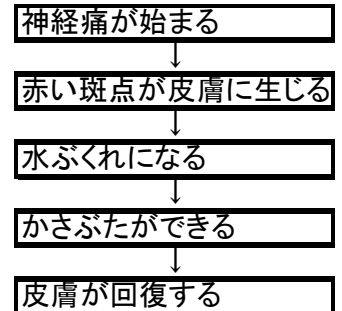
健康エクспレス No. 75

ご家族や知人の中で、突然の痛みや発疹に悩まされる帯状疱疹(たいじょうほうしん)にかかった人はいませんか。帯状疱疹は中高年の人に多く起こる病気として知られています。今回は帯状疱疹についてご紹介します。

帯状疱疹とは

(1) 帯状疱疹の症状

帯状疱疹はウイルス感染による疾患で、強い痛みと発疹を伴います。右図のような症状と経緯が特徴です。帯状疱疹の症状は特に胸・背中に多くみられます。頭部から下肢までほぼ全身に渡り、症状はそれぞれ右胸、左背中などのように、身体の左右どちらか一方に出ます。その病名の通り、帯状のかたまりとなって皮膚に症状が現れ、ピリピリするような神経痛は皮膚の症状が回復するまで続きます。皮膚の症状は概ね 20 日程度で回復します。帯状疱疹が発症する人の年代は 60 才代を中心に 50~70 才代が多くなっていますが、なかには 10~20 才代で発症する人もいます。



(2) 眠っていたウイルスが目覚ます

帯状疱疹は水痘帯状疱疹(すいとう・たいじょうほうしん)ウイルスが原因で発症します。このウイルスは主に子供がかかる「水ぼうそう=水痘」のウイルスです。人が水痘にかかると、回復した後もそのウイルスが体内から排出されず、そのまま人体の神経節(長く伸びた神経の一部分が節状に太くなったところ)にとどまってしまふことがあります。その後、加齢や他の病気、過労、ストレスなどで人の免疫機能が弱まったときに、水痘帯状疱疹ウイルスが再び活動を始めて、神経節から神経に沿って伝わり、皮膚に症状が出ます。

(3) 合併症や痛みが残る場合も

帯状疱疹の合併症として、発熱や頭痛を起こす場合があります。顔面に帯状疱疹ができると、角膜炎や結膜炎を起こしたり、視力に悪い影響を与える場合もあります。耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺なども、まれに生じます。

帯状疱疹の神経痛は多くの場合、皮膚の症状が治ると消えていきます。しかし、皮膚が正常に戻った後も、痛みが残り続ける場合があります。これは帯状疱疹後神経痛と呼ばれ、帯状疱疹によって傷ついた神経が回復していないために起こります。

治療法は？ 予防法は？

(1) 帯状疱疹の治療法

帯状疱疹と思われる症状を自覚したら、できるだけ早く医師の診察を受けましょう。帯状疱疹の治療には、抗ヘルペスウイルス薬という内服薬が使用されます。抗ヘルペスウイルス薬はウイルスの増殖を抑えて、神経痛と皮膚の症状を緩和すると共に、回復までの期間を短くします。必要に応じて、消炎鎮痛薬が使われます。また、局所麻酔薬により一時的に神経の興奮・伝導を遮断する治療(神経ブロック)が行われることもあります。抗ヘルペスウイルス薬は、効果があらわれるまでに 2 日程度かかります。抗ヘルペスウイルス薬は、発病早期に服用を開始するほど、より良い治療効果が期待できます。また、帯状疱疹後神経痛の予防にも役立ちます。もし、帯状疱疹後神経痛が生じた場合には、別の内服薬の服用や治療を行います。

(2) 予防法

帯状疱疹の予防には水痘予防のワクチン接種が有効であるとされています。健康保険が使えないため、1 万円程度の費用がかかります。主に 50 才以上の人を対象にこのワクチン接種を行っている医療機関もあります。なお、欧米ではすでに帯状疱疹予防専用のワクチンが開発され、60 才以上の高齢者に使用することが承認されています。

帯状疱疹に限らず他の病気にも当てはまりますが、免疫機能が健全に働くために、疲労を溜めず、ストレスの解消に努めましょう。



《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL: 03-3582-4511